

「プラクティカルコロノスコーピー」第2版

岡本 平次 著

東海大学教授・外科

幕 内 博 康

岡本平次・著「プラクティカルコロノスコーピー」第2版が出版された。第2版が出されたというのは、とりもなおさず第1版が売れたということである。また、多くの読者のお役に立ったということであり、引いては多くの患者の福音につながったということであろう。

さて著者の岡本平次先生は1948年のお生まれで、当年53歳と脂の乗り切ったコロノスコピストであり、有名な新谷弘実先生の愛弟子の一人である。岡本先生は開業前の一時期、東海大学医学部外科学講師として勤務しておられたこともあり、私自身も家内も、また、大切な患者さんたちも先生に定期的に検査をしていただいているとともに、教室員が何人も先生に直接指導を受けている。なかには岡本平次の直弟子を名乗る向井正哉や、遂にクリニックに勤務してしまった田口貴子もいるわけである。先生は技術の人であり、そのライブデモンストレーションは100回に及び、特徴あるヒゲと人なつっこい丸い目、独特な語り口を、コロノスコピストで知らないものはないであろう。

さて、本書は“一人法によるトータルコロノスコーピー”のすべてが記

されている。まず前処置から始まり、どうしたら苦痛なく短時間で盲腸まで挿入できるか、どこに困難部位があるのか、通常と異なる高等テクニックと補助手段、などが書かれている。ここを読むと、すぐにでも内視鏡がスムーズに挿入できるような気がするから不思議である。初心者に大腸内視鏡をやってみたいと思わせるものがある。特に高齢者での注意点は、高齢者が著しく増加している昨今、大いに参考になる。前処置・前投薬の注意点に始まり、施行中の循環動態の見分け方、スコープの選択、助手のあり方など詳述されている。細心の注意を払わなければ落とし穴が口を開けていることが良く理解できるとともに、その“留意点七か条”を守って上手にやってみようとのファイトもかき立ててくれる。また、内視鏡の進め方の1つに、車での山道走行に例えての記述もあり、“きつい急カーブの続く山道は急ハンドルを避け、直線的に最短コースを走れ”ということなど、一度読むと忘れられない覚えやすい書き方がなされている。偶発症についても自らの経験を通して記述されていて、思わず引き込まれて読み進んでしまう。どうしたら予防ができるか、

不幸にも起こしてしまったら、“黄玉”がみえてしまったらどうするか。循環器系、呼吸器系合併症の記述も具体的である。内視鏡医自身のケアの項も興味を引くところであり、他にない特徴であろう。A型性格についてなど、小生自身を振り返っても身につまされるところがある。最後のQ&Aも、著者が実際に受けた質問の中から重要なものを選び出したもので、大変参考になる。

とにかく読み出したら引き込まれて止まらなくなる。楽しく読めて勉強できる。著者の語り口のうまさ、臨場感あふれる文章は、とてつもなく多数の、いや、右中指MP関節脱臼を起こさせるほど多数の臨床例と、これまた多くの講演、ライブデモンストレーションに裏打ちされたものである。本書の読後には、天才岡本に数歩とも近づけるであろうし、“栄光のコロノスコピストへの道”を歩き出すことができるものと確信している。

●B5 頁296 図80 写真22
カラー写真286 色図30 2001
定価(本体19,000円+税) 送料実
費

医学書院 刊 (☎ 03-3817-5657)